

T・から始める酪農

～原発事故によって、浜通りから中通りに経営移転～

三瓶恵子
(株)T・エニオンテレーリィ



私の暮らしていた浪江町津島は、阿武隈山溪のほぼ中央に位置した標高 450m にあり、浜通りとは名ばかりで山合いの自然に恵まれた集落です。そこで親の代から牛飼いをしていました。

山あいの豊かな自然



この地域では昭和 30 年代に酪農が始まりました。
養蚕や葉たばこにかわる現金収入を得られる新しい産業として、当時多くの農家が牛飼いを始めました。

継承者たちによる共同作業



その後、2代目を引き継ぐ若者を残し、経営を継承したのは10戸ほどになりました。

経営の柱となる自家ロール



震災前は、この地で自給飼料を中心とした酪農経営を実践していました。

自然に恵まれた草地全景

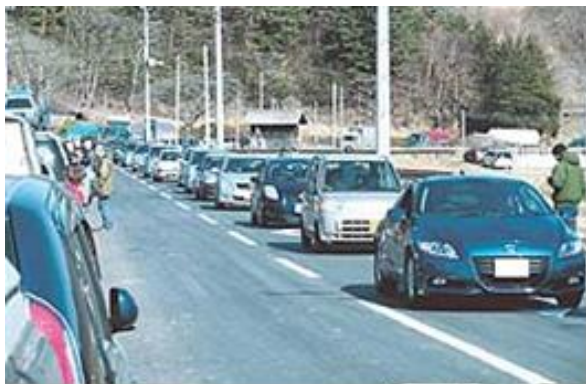


このような自然に恵まれた環境があって当たり前とっていました。私の三瓶牧場でも経産牛 57 頭、耕・草地 10.5ha、現在はユニオンデーリィの代表で私の弟が経営する今野牧場も経産牛 36 頭を、草地 13ha の中で飼い、土、草、牛とともに、この地で酪農人生を続けていくはずでした。



今思うことは、2年前の3.11の震災、そして原発事故さえなければということです。浪江町の沿岸地域は、津波、そして中心部は住宅の倒壊、生活道路は陥没と大きな被害を受けましたが、私たちの住む阿武隈山溪は岩盤が強く、ほとんどの住宅は無傷に近い状態でした。地震直後から停電することもなく、いわば普通の生活ができました。





避難する人たちは西へと向かい、道路の大渋滞する中で、生き物と生活する私たちは、途方に暮れながらも牛たちにえさを与え、乳を搾っては捨てるという日々を繰り返していました。



私たちの恵まれた自然も生活も・・・



東京電力福島第1原発3号機が爆発した日、状況は一変し、みえない放射能を乗せた悪魔の風は、30 kmも離れた私たちの大切な自然、そして生活もすべて奪ってしまいました。家族は避難させましたが、牛はどうする、酪農飼料も来ない、蓄えた牧草も底をつくといった状況で、集落に残ったのは数人の酪農家だけになりました。

浪江町津島地区は、原発事故によって平成23年4月22日には国から計画的避難区域となり、おおむね1ヵ月間、避難を余儀なくされました。私たち人間は避難できても、今までの酪農を築き上げてきた牛たちはどうするか。売るか、処分するか、あるいは避難区域外へ移動させるか。牛の避難をさせようにも、牛舎が必要になります。牛の移動については何の指示もなく、二転三転し、地域の多くの仲間も休業という悔しい決断をしなければなりませんでした。

津島の牛舎が・・・



これは牛を全頭避難させた5月27日の午後に、
私たち夫婦で写した牛舎の内部です。

福島県自家産初の94点 エクセレント牛



これは、長年の努力によってつくり上げてきた愛牛、ユニオンデールダンディーガールです。都府県7頭目の94点を達成した牛です。トップクラスの牛を失うことは牛飼いとして象徴をなくしてしまうことであり、「意地でも助けてやりたい」という一心で私たち夫婦と弟は、移転先を必死で探しました。

中通りの新しい移動先



条件に合う移転先はなかなか見つからず、やっとの思いで浪江町から 50 k m離れた現在の本宮市のこの地に空き牛舎を見つけました。

仲間の乳牛改良同志会

私の酪農仲間、乳牛改良同志会の皆さんです。



移動先牛舎から1kmと身近な 福島県酪農協



私の酪農仲間をはじめ、所属する専門農協である福島県酪農協に何度も親切に相談に乗っていただき、励ましや後押しがあって、やっと移動させることができたのは5月27日でした。

一か月間の家畜移動



移動に当たっては、個体をスクリーニング検査し、問題なしとわかって連れてきましたが、出荷までには3週間にわたる牛乳のモニタリング検査をしなければなりません。結果、放射能は一度も検出されることなく、6月14日に出荷できました。

移動先牛舎で、のんびりと



津島から移動先の牛舎に連れてこられる頭数は半減しました。それぞれの牧場から 30 頭ずつ、未経産・経産牛を含め妊娠している牛を第 1 条件にしました。

牛群の検定成績と経営指標のリスト

77666

ア・ユニオン デーリィ

ハートビート印刷 閉じる

今月度の牛群の成績 検定日 2013/01/23

	平均 経産牛頭数	平均 搾乳牛頭数	総乳量	経産牛1日 1頭当乳量	搾乳牛1日 1頭当乳量	平均 乳脂率	平均 蛋白質	平均無脂 固形分率		1頭当り 成績
検定日	59.0頭	48.0頭	1435kg	24.3kg	29.9kg	4.19%	3.42%	8.92%	補正乳量平均	9755kg
過去1ヶ月	56.8頭	49.5頭	540218kg	26.1kg	29.9kg	4.17%	3.36%	8.86%	経産1頭乳量	9536kg

	総乳量	平均濃厚 飼料給与量	平均濃厚 飼料単価	平均乳価	飼料効果	総乳代	総濃厚 飼料費	総乳代－ 総濃厚飼料費	乳飼比	生乳100kg 生産費
検定日	1435kg	10.2kg	¥58	¥100.0	2.8	¥149,520	¥28,397	¥115,123	28%	
過去1ヶ月	540218kg	9.8kg	¥58	¥99.0	3.1	¥53,491,607	¥10,288,567	¥43,212,040	19%	

前年度の牛群の成績 検定日 2012/01/24

	平均 経産牛頭数	平均 搾乳牛頭数	総乳量	経産牛1日 1頭当乳量	搾乳牛1日 1頭当乳量	平均 乳脂率	平均 蛋白質	平均無脂 固形分率		1頭当り 成績
検定日	63.0頭	52.0頭	1706kg	27.1kg	32.8kg	4.21%	3.27%	8.79%	補正乳量平均	9557kg
過去1ヶ月	0.0頭	0.0頭	0kg	0.0kg	0.0kg	0.00%	0.00%	0.00%	経産1頭乳量	0kg

	総乳量	平均濃厚 飼料給与量	平均濃厚 飼料単価	平均乳価	飼料効果	総乳代	総濃厚 飼料費	総乳代－ 総濃厚飼料費	乳飼比	生乳100kg 生産費
検定日	1706kg	10.5kg	¥58	¥99.0	3.1	¥168,854	¥31,668	¥137,186	19%	
過去1ヶ月	0kg	0.0kg	¥0	¥0.0	0.0	¥0	¥0	¥0	0%	

スタート 牛群管理2023年へ... 牛群の検定成績と経...

私たちは牛群検定にも参加していました。

体型審査得点94点

ユニオンデール ダンディー ガール号 期待の星☆



「T・ユニオン ダンディー ジュピター」

平成24年6月28日生まれ



個体能力でも、体型審査得点 94 点を獲得したユニオンデールダンディーガール号の期待の星「ダンディージュピター」です。

T・ユニオンデーリィ



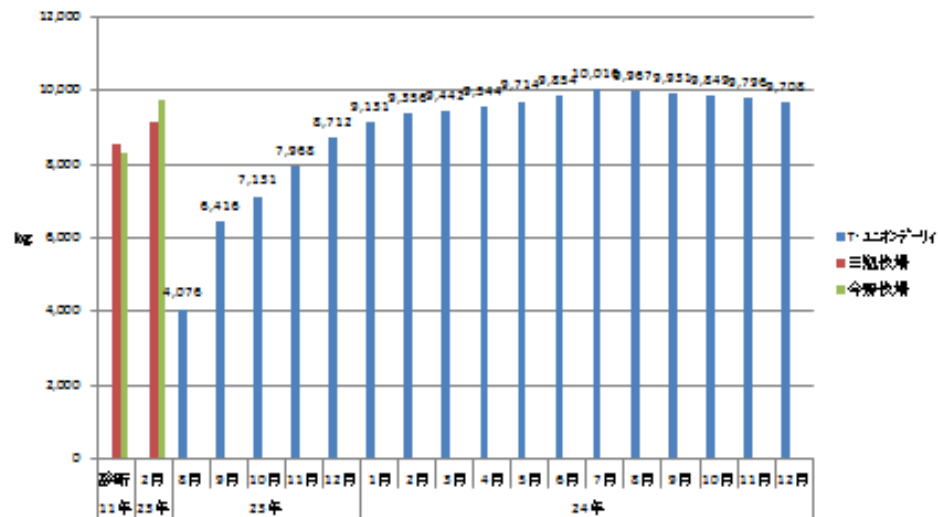
この写真が今現在避難している当牧場の看板です。上にあります佐々木牧場というのは家主さんの姓であり、5年ほど前に離農されて、牛舎が空いていました。今まで別々の経営であったため、牛乳販売、収入の仕分け、経営仕分けなど、申告のことについても悩みました。兄弟で経営を始めるに当たり、経営と家計を分けてメリハリをつけなければ、2人体制の単なるなれ合いの共同経営となってしまうおそれがあったため、法人化することにしました。また、法人化することにより、将来的には第三者への事業継承もできるのではと思いました。

T・ユニオンデーリィ構成員



定款に定めた称号、T・ユニオンデーリィのTは、
ふるさとの浪江町津島、三瓶利仙、今野剛、2人の
名前の頭文字のTの意味を含み、構成員5名によっ
て株式会社T・ユニオンデーリィを立ち上げまし
た。

復活までの月日（経産牛1頭あたり産乳量）



法人化する前まではそれぞれの経営で、牛群成績による個々の能力、群としての能力は把握していましたが、移転後一変しました。さまざまな牛への環境変化、飼養管理の違いなど、移動によって牛たちはストレスがあったことは確かで、牛は正直で、それを数値に訴えます。

現在事項全部証明書

福島県喜望峯町大字赤平小町九番20番地
株式会社・ユニオンデューリィ
会社法人番号 36000011-020588

商号	株式会社・ユニオンデューリィ
代表者	代表取締役 伊藤 孝太 小町九番20番地
設立年月日	平成23年7月12日
目的	1. 乳牛の育成・飼育と牛乳の生産及び販売 2. 野郎や鞍馬の生産及び販売 3. 牛乳を原料又は材料として使用する製品の製造及び販売 4. 農業生産に必要な資材の製造及び販売 5. 農作業の受託 6. 民間の経営 7. 前各号の事業の関連する事業
発行可能株式総数	1000株
発行済株式の総数並びに種類及び数	発行済株式の総数 100株
資本金の額	金500万円
株式の譲渡制限に関する規定	当会社の発行する株式の譲渡に制限を設けておらず、自由に譲渡が可能です。
役員に関する事項	取締役 今 野 翔 取締役 三 塚 利 雄 福島県本宮市赤平小町九番20番地 代表取締役 今 野 翔

これは登記簿に記載されている現に能力を有する事項の全部であることを証明した書面である。 平成23年 8月 1日
福島県方法務局 登記官 菅 原 武 志

今まで個々の牛群検定データや酪農組合からのデータ提供により、経営や牛群改良のデータを把握していましたが、平成 23 年8月からT・ユニオンデューリィは個体識別データ、牛群検定データ、経済データなど、酪農経営を総合的に支援する大家畜畜産経営データベースにも登録し、さまざまな改善策に利用しています。

本店は「浪江町津島」



私たちは、税金対策だけで株式会社を設立したのではありません。2人の技術をなくさないよう、卓越した技を継承しなければと、夫の経営能力、弟の改良能力の技を伝え引き継ぐためにも、私はとりまとめ役として、与えられた時を福島酪農とさらなる復活のために、これからも邁進します。そして、現在の場所は支店であって、本店はあくまでも浪江町津島にあります。津島でのロール収穫時の懐かしい風景です。



牛舎と住宅が離れてしまったことや借り上げ牛舎では、増頭や施設設備を充実させることはできません。

平成24年第30回福島県ホルスタイン共進会



50代の私たちにとって、いつまで働けるか、不安だらけの経営ですが、避難して2年目の昨年秋に、3年ぶりに第30回福島県ホルスタイン共進会においてユニオンデールタレントコーリー号がグランドチャンピオンの栄冠に輝くことができました。

第30回福島県ホルスタイン共進会グランドチャンピオン
「ユニオンデール タレント コーリー」号



この3月で被災から3年目を迎えようとする中で、明るい希望もみえてきましたが、私たちが望む酪農に近づくまで働ける残り時間が尽き果ててしまうのではないかと、重なる不安の中で、目標はなかなかみつかりません。

ただひとついえるのは、過去を振り返るのも大切ですが、私たちは常に前向きに取り組むことが大切だと考えています。

酪農組合の方がいつてくれた言葉を思い出します。「牛は大切な資源だ」。当たり前のことですが、牛乳を生産する、牛にしかできない仕事のために、私たちは土をつくり、草をつくり、牛をつくってきました。牛を支え、牛に支えられてきた私たちの努力や知恵を技と呼ばせてもらえるなら、私たちのこのちっぽけな技を次の世代に伝え、つないでいけるまで酪農を続けて、牛で食える生活をしていきます。



土を作り



草を作り



牛をつくる

浪江町津島からここ本宮市に避難して、まさに3年目を迎える平成25年2月2日に、現場主義で復興の加速を目指し、国の出先機関の機構を一元化した福島復興再生総局がようやく本格的に始動しました。

同総局は、福島復興局、政府原子力災害現地対策本部、環境省福島環境再生事務所の県内3機関の機能を総合したものです。今後は復興にさらに拍車がかかると思います。

津島の未来へ



T・ユニオンデーリィ

1人のときよりT・ユニオンデーリィの仲間、酪農の仲間、そして復興再生によって一元化された再生総局も加わり、個々で悩みやり抜くより、相談し、助け合うことによって法人化による経営メリットがあるはずです。

福島の農業の苦難は大きく、まだまだ続きますが、牛と生きる喜びを糧とし、1日1日を重ねていきたいと思っています。どうぞ関係各位の皆様にはさらなるご指導をお願いします。

最後に、私は人生の最後の日、地元の言葉でこういつて終えようと思っています。「ああ、おもっしえがった」。